

学校評価シート

<学校経営方針の重点>

- 1 学力向上 2 健全育成 3 組織運営・人材育成

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
1 学力向上	◆授業規律及び基礎・基本の徹底 ◆生涯にわたり、主体的・協働的に学び続ける力の育成	●「授業の指針」に基づく、力の付く、学びがいのある授業の実施 ●道徳科の指導・評価の充実	①チャイム始業・チャイム終業及び礼に始まり礼に終わる授業の実施	B	・高い意識で取り組んでおり、始業・終業の時間はよく守られている。 ・礼に課題のある生徒がいる。	・生徒会を動かして取り組めるとよい。 ・授業後に係が評価し、改善意識を高めるよう取り組めるとよい。	A	・2割の生徒が不十分なので、指導継続をお願いする。 ・教師が授業前に教室で待つのはよいが、過保護な気もする。 ・休み時間に教員が廊下に残るのは生徒との距離が近くなってよいが、反面生徒はリラックスできないかもしれない。	・来年度も継続して取り組む。 ・休み時間については、生徒がリラックスできるような心掛けしている。今後も配慮して実施する。
			②放課後及び長期休業中の補習学習の充実(数学)	B	・充実した取組ができています。 ・参加の生徒によっては、意欲の低い者がいる。 ・夏休みの補習で、基礎固めができた。	・学校全体の取り組みを考えていく。 ・参加が望ましい生徒に、積極的に参加を促すことも必要である。	A	・学力が心配な生徒に補習の参加を促すのはよいが、参加意識の低下が危惧される。 ・教員が手厚く指導してくれるのはありがたい。逆に高校に入ってからが心配でもある。	・来年度も継続して取り組む。 ・生徒が参加してよかったと思えるよう、内容を工夫していく。
			③主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	B	・校内研究の授業で、授業の工夫を見たり、他者の意見を聞いたりして、参観者の授業改善に役立っている。 ・授業PRカードを通して改善できた。 ・各教員が意欲的に授業改善に取り組んでいる。	・校内研究の回数を増やせるとよい。	A	・授業PRカードを活用した授業改善の取組は、成果が出ていると感じた。 ・自分の授業を管理職の先生や他の教員に見てもらい、授業力を高めたいという意欲が感じられる。	・来年度も継続して取り組む。 ・管理職からの指導だけでなく、校内研究授業の協議会の質の向上がうかがえた。来年度につなげていく。
			④「道徳ノート」を活用した評価の実施	B	・「道徳ノート」は、1冊にまとまりわかりやすいが、使いにくさもあった。 ・「道徳ノート」にこだわらず、ワークシートやファイルも有効に活用した。 ・1冊のノートにまとまるので変容が見取れる。	・使いやすいように加工して、ワークシートとして使う方がよい。 ・他学年の活用について情報共有すると改善しやすい。	A	・道徳ノートを保護者に見てもらうだけでなく、今後は様々な活用方法を工夫するとよい。 ・道徳の教科化に伴い、今後も研究を継続し、工夫を凝らしてほしい。	・「道徳ノート」を活用した保護者との連携は、来年度の課題として検討していく。
2 健全育成	◆社会において自立的に生きる力の育成 ◆いじめや不登校等への問題の対応	●よりよい社会人になるための望ましい習慣の形成 ●教職員と生徒との信頼関係の強化及び相談体制の充実	①一小及び四小との連携による9年間を見通した習慣の形成	B	・テーマに沿った情報交換ができ、小学校との連携が深まった。 ・小中一貫の日の情報交換では、学校間の違いも確認できた。 ・学習習慣の形成に向け、家庭学習ノートの取り組みを充実させたい。	・引継や連携については、今後もよりしっかり行いたい。 ・小中一貫の日を通して、今後取り組むべき内容を明確にできるとよい。 ・学習習慣は、各教科担当が学習方法を示し、家庭学習ノートの指導につなげるとよい。	A	・きまりなどの生活面については、外から見ているとよく指導されているように見えるが、これからも気にかけていく。 ・今後は、SNSについての指導においても、小・中学校で連携を深めていく必要がある。	・小・中学校で「望ましい習慣の形成」に関する考えを共有している。来年度も連携して取り組んでいく。 ・SNSの指導については、今年度重点を置いて取り組んだ。今後は、小学校との連携を検討していく。
			②教職員による生徒への「挨拶プラス一言運動」の実施	B	・一言を加えられない時も、笑顔で接した。 ・生徒アンケートでも8割の生徒が進んで挨拶をする回答しており、成果が表れている。 ・概ね充実しているが、教員の取組に差がある。	・生徒同士での声掛けを活性化していく取組も充実させていく。 ・この運動を通して、相手を思いやる気持ちの育成を大切にしていこう意識をもつ。	A	・挨拶に一言加えるのは大変だが、今後も続けてほしい。 ・挨拶や生活面については、家庭の指導とうまく連動させていくことが重要であり、今後の課題でもあると思う。	・教員と生徒とのよりよい関係の構築という点においても、必要であると認識している。来年度も継続して取り組む。
			③全教職員による「いつでも誰にでも相談週間」の実施	B	・相談週間の周知は十分とは言えないが、相談週間でも誰にでも相談できる雰囲気がある。 ・相談できる教員がいない1割の生徒の状況を分析する必要がある。	・相談週間の周知の仕方の検討が必要である。 ・相談できる教員がいないという生徒への対応として、心配な生徒を明確にし、対応の検討及び実践を継続していく。	A	・生徒が先生とコミュニケーションをとれていることはよい。 ・話せる先生がいない若干名の生徒については、表情等から気付いて声をかけていく必要がある。また、家庭で会話できていればよいし、本来は家庭での会話こそ重要である。	・常に教員に相談しやすい学校を目指す。そのきっかけの一つとして、次年度も実施する。 ・来年度は、「いつでも誰にでも相談週間」の周知にも力を入れる。
			④休み始めの迅速・組織的な対応等による不登校問題への対応	B	・不登校の状況は、市内でも非常に良好である。 ・学年・担任だけでなく、特別支援部を中心にSCやサポート教室など学校体制で取り組めた。 ・外部関係機関と連携した取組ができた。	・油断せず、現在の取組を継続していくことが重要である	A	・社会に出ていけるよう長いスパンで考え、本人だけでなく保護者に対しても継続した働きかけや情報提供が重要である。 ・信頼関係ができてくると子供たちから心を開くこともある。時間がかかるが、粘り強く取り組んでほしい。	・相対的には人数は少ないが、不登校生徒がいることを重要課題として捉えている。 ・来年度も初動を重視するとともに、生徒の気持ちに寄り添いながら粘り強く対応する。
3 組織運営・人材育成	◆主体的に課題を解決し、着実に成果を上げ続ける組織・人づくり	●経営計画の実施に向けた協働体制の確立 ●経営改善に資する学校評価 ●チームとしての対応力の強化	①教育目標で中核とした資質・能力の育成ー「学校のグランドデザイン」の活用ー	B	・グランドデザインは各取組の実施要項等に明記されている。 ・取組において、グランドデザインとの関連性を意識する必要がある。 ・周知をよりしっかり行うとよい。	・各取組で育成したい資質・能力について、教員が意識するだけでなく、生徒にも周知する。 ・実践を計画する際に、育てたい資質・能力をより意識する。	A	・教育目標実現の流れがシステム化されていて、とてもよい。 ・この流れを生徒に教えられれば、目標を達成する方法を学べるのではないかと感じた。ぜひ、生徒に教えてほしい。	・今後もこのシステムを継続し、グランドデザインが各取組の実践に生かされるようにしていく。
			②学校経営計画に即した自己評価及び対話を重視した学校関係者評価の実施	B	・学校経営計画の達成に向けて、学校全体で取り組んでおり、重点項目と方策は、自己評価する際の視点として生かされている。 ・学校運営連絡協議会での助言はありがたい。	・学校経営計画をよく読み、理解を深めることが大切である。 ・今後は、学校運営連絡協議会を現在の形で行い、学校運営に生かせるようにする。	A	・学校経営計画が実践されるまでのシステムが明確で、実践の様子も具体的にうかがえた。 ・全体の説明で分かりにくい部分も、各ブースにおいて直接質問できるので、学校で行われていることがよくわかる。 ・学校を評価する方法も年々改善され、評価しやすくなった。	・来年度も今年度同様に取り組んでいく。 ・学校関係者評価について、更なる改善を検討していく。
			③目標共有、役割分担、調整・統合の各機能を高める幹部会及び運営委員会の実施	B	・幹部会や運営委員会での内容を学年等に円滑に伝えることができています。 ・学年から運営委員会への伝達も密にしたい。 ・学校の円滑な運営の土台となった。	・今後も、より情報共有を密にしていけるよう、継続していく。	A	・幹部会や運営委員会の重要さが理解できるとともに、学校運営に生かされていることが分かった。 ・情報収集に必要なメンバーがもれなく組織されていてよい。 ・情報共有と対応の明確化は、教員も生徒も安心できる。	・幹部会や運営委員会の取組は、今後も継続する。 ・学年会の意見を運営委員会に生かせるよう工夫していく。
			④新学習指導要領に向けた準備	B	・新しく追加されたところなどが明確に示され、準備もスムーズに行っている。 ・新学習指導要領移行に向け、週案への記号の記入や、授業研究等を通して、準備が進んでいる。 ・評価についての準備が遅れ気味である。 ・教員により取組に差がある。	・広く新学習指導要領に向けた準備が必要である。特に主体的な学習に取り組む態度の評価方法について取り組む必要がある。	A	・学習指導要領の内容については分からない面もあるが、組織としては、とてもよく取り組んでいることは分かった。 ・特に意見はない。信頼して任せたい。 ・地域に開かれた教育に向け、保護者が学校教育にどのように関わっていくかについて、今後考えていく必要がある。	・今後は、より効率的・効果的な学びの実現に向け、教科間のカリキュラム・マネジメントを工夫していく。 ・保護者との連携については、PTA本部と検討を進める予定である。